

児童生徒の作文・習字募集事業 優秀作品

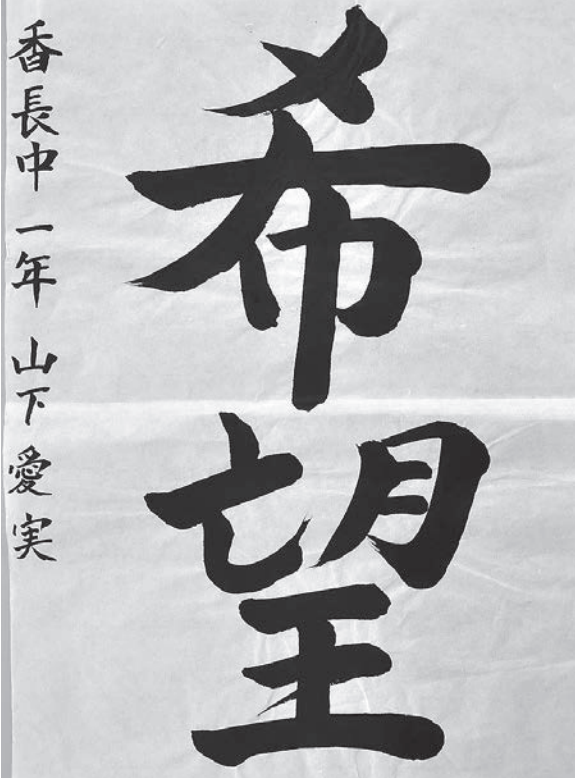
特集

南国市制施行60周年記念事業に寄せられた小中学生の作品(作文214点と習字567点)から特に優れた作品を令和元年10月1日の記念式典にて表彰された8作品を先月号からご紹介しています。今月号は南国市教育長賞を受賞された2作品です。

南国市の未来をテーマに、子どもたちのふるさとへの誇りや願いが綴られた作品をぜひご覧ください。

■習字部門 南国市教育長賞

香長中学校一年 山下 愛実さん



香長中一年 山下愛実

■作文部門 南国市教育長賞

香長中学校三年 永森 真尋さん

『未来の「南国市」への希望』

「どこよりも大きな地域の輪をもつ市になつたらいいな。」

南国市の未来を考えた時、私が最初に思ったのはこんなことでした。単純だし小学生みたいだねと言われてしまいそうですが、こんな地域になるのはとても難しいことだと思います。

私たち子どもは、スマホやゲーム機を持つようになつて、国内だけでなく世界の人たちともつながれるようになりまし。しかし、その一方で外で遊ぶことが減り、会話も少なくなつた気がします。それにつれてだんだんと地域の人の関わりも少なくなつてきているのではないのでしょうか。

昔は、隣の人に子どもをあずけるぐらい近所との関わりが深かつたんだよ。とおばあちゃんから聞いたことがあります。

しかし、今の時代でなかなかそういうことをする人はいないと思います。それだけ相手を信頼し、任せられるほどの関係を築けていないのではないのでしょうか。それは、少し悲しい気がします。

また、時代が変わつていく中で、各地域では過疎化が進むようになってきました。

これは高齢化や少子化と同じぐらい大きな問題といえるでしょう。しかし、若い人たちが都会へ出ていくことは止められないし、過疎化は今後さらに進んでいくと思います。そんな中でも地域の輪が大きく、みんな仲が

良かったら、その地域の明るさや活気、楽しさは続いていくのではないのでしょうか。

同じぐらいの年齢の子どもと仲良くしたり、世界中の人とつながったり、そういう人との関わりは人間関係を築いたり、自分の知識を広げていくうえで必要なことだと思います。しかし、そのことばかりに偏りすぎて、私たちは自分たちが住んでいる地域と関わっていく機会を減らし、地域の輪を小さくしていつている気がします。

地域の輪は、みんなが思っている以上に大きな力をもつたものです。輪が大きければ大きいほど、雰囲気もよくなり、支え合い協力する力も強くなると思います。きっとその力は、今後三十年以内には必ずくると言われている南海トラフ地震がおこった時にも役立つものになるでしょう。

南国市は、お祭りがあつたり、ボランティア活動があつたりと、地域と関わる機会がいくつもあります。しかし、毎日の関わりではありません。ほぼ毎日関われることといえは何かあるでしょう。「挨拶」です。挨拶をすることは、人と関わっていく中で大切なことの一つです。その挨拶が地域中にあふれたらどうなるでしょう。きっと世界中にほこれる市になります。現在、香長中でも各委員会や部活が挨拶運動に取り組んでいます。まずは生徒一人一人が挨拶を心がけるようにし、それがいつか地域の輪を作るためのピースになればいいなと思います。

私の未来の「南国市」に対する希望は、世界最大の地域の輪をもつ、世界にほこれる市になることです。

南国市 60 周年記念市民のメッセージの紹介

南国市60周年を記念しまして市民のメッセージを広報なんこく12月号にて再募集しました。応募のあった市民からのメッセージを紹介します。

還暦の我を迎えた故郷は

山に霧立つまほろばの里。南国市に帰って12年、故郷の風景は私を少女の心に戻してくれました。

P.N. みさバーノ

70代・食生活改善推進員

南国市に嫁に来て50年。実父母もいなくなり、この地が私の故郷となりました。50年間特に大きな災害も記憶していませんがこれからはわかりません。皆で自主防災などに取り組み災害の少ない住みやすい市にしたいです。

高田勝子さん/70代・無職

南国市は、美味しい食べ物がいっぱい！給食で、ブドウ味とヨーグルトの2層になった、「まほろばゼリー」懐かしいです！是非、復活して今の子どもたちにも食べてもらいたいです。

匿名/30代・事務

結婚して南国市に移り住んで20年。とても住みやすかつたです。夫の退職で南国市を去りますが、本当にありがとうございました。

P.N. まちねこ/50代・主婦

東京で学生時代の寮生活中、同級生から、「外国から電話よー」と言われたが、心当たりはなし。電話に出ると、親からだつた。外国は、南国の聞き間違い(笑)もつと外国にも南国市をアピールしたいですね！

匿名/60代・看護師



委員長のコメント

元号が平成から令和に移行された昨年十月、南国市は市制施行六十周年を迎えました。

南国市は記念事業として、式典をはじめ、さまざまな取り組みをしました。これらの事業は必ずや将来の南国市の新たな形成に役立つものと思ひます。中でも心に残つたのは市内小中学生から応募のあつた、ふるさとを綴つた作品です。

広報委員会としても、この機会に「市民参加型の広報」という視点で幅広い世代の方から、貴重なご意見をいただきましたこと、紙面を借りてお礼申し上げます。このご意見は、広報を通じて一部ご紹介させていただきます。

広報も六十周年という節目を機に、この貴重なご意見を反映させ、市民の皆様と親しまれ、愛される広報を目指し委員一同、心機一転取り組み所存です。今後とも温かいご支援をお願いいたします。

シリーズ国営ほ場整備 ⑨

土地改良区の設立について

土地改良区の業務について

ほ場整備時事業を進めていくにあたり、受益地区15団地のうち13団地で土地改良区(仮称：高知南国土地改良区)を新たに設立します。新たな土地改良区では、本事業に係る事業費負担金の徴収、換地業務の清算、整備した施設(パイプライン、ポンプ場など)の維持管理、国からの促進費の受領等を行い、設立時期は令和3年1月を予定しています。

なお、稲生・久枝団地については新設の改良区には参加せず、既存の改良区で業務を行う計画です。

土地改良区にかかる費用について

土地改良区の運営に係る諸経費については、1反当り年間約900円となります。

また、パイプラインやポンプ場を整備する団地については運営経費とは別に、整備後から電気代など維持管理経費がかかります。

■問い合わせ 農地整備課 ☎880-6586

